2024 トップインタビュー
サステナビリティ経営の針路

ネツレン 大宮 克己社長

事業ポートフォリオ改革で収益体質強靭化

次期中計、成長・戦略投資で〝攻め〟へ

――今期は第15次中期3カ年経営計画の最終年度であり、重点課題の進ちょくから聞きたい。まず第1の戦略である収益基盤の確立は。

「事業ポートフォリオ改革を通じて、収益体質はかなり強靭化できた。海外拠点の事業用地のフル活用も構想し、米国、インドネシアでは実現できた」

「ネツレンアメリカはITW（高強度ばね鋼線）の生産能力を1・4倍に拡張し今月からフル操業状態で量産開始している。ネツレンインドネシアは自動車用軸受部品の熱処理受託で昨年2号機が稼働開始し、3号機の増設も決めた。2026年度までに地盤強化、増築、設備導入を進める。メキシコとチェコは活用余地があるため、16次中計で検討していく」

――新商品・新規事業の売上高は。

「今期は残念ながら100億円には届かない見通しだ。ダブルスターク（一本で普通強度と高強度の2種の強度を合わせ持つ部分高強度鉄筋）やカットオフ工法など建築土木製品の数量が上がってこないのも一因だ」

「ダブルスタークは認定の適用範囲に制約があったので、この拡大に取り組んできた。直近でようやく実現したので、これから採用活動を広げる。梁の付け根部に開孔を設けて、居住空間の拡大による快適性の向上を実現するダブルスタークの特長がいよいよ生かせるようになる」

――第2のデジタル戦略「N－DX」の進ちょくは。

「モデル工場の検証実施と横展開、業務フローの整理と課題抽出の2本柱で進めてきた。検証実施はVR技術を活用した安全教育、IoT活用による業務効率化、検査工程の自動化などを各工場で進めており、現場帳票入力システムは単体工場の半数で導入している」

――第3のCO_2排出削減の一環として進める太陽光発電システムの導入について。

「尼崎、神戸工場に続いて、今後、岡山、いわき工場で設置し、26年度に尼崎、神戸で増設する。30年度のCO_2排出削減目標（13年度比30％減）に対する進ちょく度は5割程度だ。輸送における取り組みでは、22年から対策を本格化し、船舶、鉄道を活用したモーダルシフトやトラックの平均積載量の向上、台数削減などを進めている」

――第4の戦略は人財に焦点を当てている。

「海外グループ会社の現地スタッフを交えた交流の下地はできつつある。人財本部を中心に階層別研修制度の充実も図っている。女性活躍の話題では、工場の総務の女性社員が熱処理技能士の資格を取得し全社目視測温大会で優勝した」

――社長診断と銘打ち全拠点を回り、従業員懇談会を行っているそうですね。

「今年度は課長以下の200人以上と懇談の場を持った。会社の施策を理解してもらう良い機会になっている」

――24年度からの第16次中期経営計画の基本コンセプトも聞きたい。

「攻めの中計と位置づけ、事業成長と新規事業の創生、ROE・PBR目標実現とROICの本格展開、CO_2排出削減推進を重視する。事業成長と新規事業の創生では、事業ポートフォリオ分析による成長分野への積極投資を目論む。さらに、新たな事業展開や技術開発のスピード化を図るとともに、M&Aについても検討していく」

――産業競争力強化法の改正案では、従業員2千人以下の企業を「中堅企業」と定める方針です。この動きをどうみますか。

「大企業でも中小企業でもないわれわれクラスに目を向けて頂けるようになったのは有り難い。16次中計は成長投資や戦略投資を積極的に展開しようと考えており、中堅企業に対する優遇税制や施策もしっかり活用して前向きに進んでいきたい」

（谷山　恵三）